

⑨ 日本国特許庁 (JP)
 ⑩ 公開特許公報 (A)

⑪ 特許出願公開
 昭59—129295

⑫ Int. Cl.³
 C 10 M 7/26
 // B 22 C 3/00
 C 08 F 230/02

識別記号

庁内整理番号
 7824—4H
 6689—4E
 7308—4J

⑬ 公開 昭和59年(1984)7月25日
 発明の数 1
 番査請求 未請求

(全 5 頁)

⑭ 離型剤

⑮ 特 願 昭58—3187
 ⑯ 出 願 昭58(1983)1月12日
 ⑰ 発明者 松本泰宏
 奈良市南城戸町58—3

⑱ 発明者 西富克彦

堺市浜寺諏訪森西2—104

⑲ 出願人 大日本インキ化学工業株式会社
 東京都板橋区坂下3丁目35番58
 号
 ⑳ 代理人 弁理士 高橋勝利

明細書

1. 発明の名称

離型剤

炭素数6～30のアルキル基を表わす。)

で表わされる炭化水素系ビニル単体を10～70重量%を重合して得られる共重合体を含んでなることを特徴とする離型剤。

2. 特許請求の範囲

基
 パーフルオロアルキル含有ビニル単体(a)を20～80重量%、一般式[I] $(CH_2=C-R_2-O)_n-P(O-M)_m$ [I]
 (但し、R₁は水素原子あるいはメチル基を表わし、R₂は炭素数6以下のアルキレン基又は置換したアルキレン基あるいはそれらとエーテル基、エステル基、アミド基等が連結した2価の結合基を表わし、n、mは1あるいは2であり、かつn+m=3である。Mは水素原子、アルカリ金属原子、アンモニウム基、又は置換アンモニウム基を表わす。)
 で表わされるリン酸基含有ビニル単体(b)10～50重量%と一般式[II] $CH_2=C(O-R_3)-C(O-R_4)=O$ [II]
 (但し、R₃は水素原子あるいはメチル基を表わし、R₄は

3. 発明の詳細な説明

本発明は離型剤に関するものである。

更に詳しくは、ゴム、熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂等の高分子化合物又はセメント、セラミック等の成型物製造の際に金型に塗布して使用される様な優れた離型効果及びその持続性を有する離型剤に関するものである。

かかる用途の離型剤としては従来シリコンオイル、パラフィンワックス、鉱物油等が使用されているが、離型効果が不充分であつたり、離型剤が樹脂等の成型品に付着して成型品の品質低下を招く等の問題点が多く見られ、十分なものとは言い難い。又、ある種のフッ素系化合物が離型性